

# 西都版「ひなたの学び」アクション・プラン

— グローカルな人材を目指した主体的かつ対話的な深い学びの充実 —

## 《背景》

- ◇ 日本を取り巻く国際情勢の中で、あらゆる分野で急激に多様化し、複雑化し、高度化しており、自分の未来を自分で開くことが大切である。
- ◇ 少子化・核家族化の影響により、ふるさとに誇りを持ち、西都市の成長や未来を直接的・間接的に支える人材の減少が大きな課題である。
- ◇ 国際社会で生き抜くためには、知識偏重型の学びではなく、基礎学力を基にした探究型の学びの連続が必要である。

- ◇ Society5.0社会実現に向け、義務教育の最大の目的である「自立」を念頭に置いて、連続した探究型の学びを通じた「地域（local）社会の成長・未来を支える人材」から「国際社会（global）を意識し活躍する人材」まで幅広い人材育成が重要である。

## 《育成すべき人材》

### グローバル（glocal）な人材育成

グローバル（global）な視座=常に国際的な視野に立ち、様々な分野で活躍できる自立した人材の育成  
ローカル（local）な視座=どこにいてもふるさと西都に思いを馳せ、どんな形でもふるさとに貢献する人材の育成

ふるさとに思いを求め、変化の激しい国際社会を生き抜くための探究力を育てる **ひなたの学び**（ひとりひとりが問いをもち、なかまとなって学び合い、高めよう深く考える力）の推進が重要

## 《西都市の進めるこれからの教育の方向性 — ひなたの学び —》

### OUTPUT型の主体的で対話的な深い学び

～ 能動的な資質・能力（深い知識、技能、意欲・態度、価値観・倫理感）の育成 ～

知識の深化とともに、探究的・互恵的な学びで新たな価値を生み出す

「自立」し時代を生き抜く

学力観



◆ 学力=基礎学力（読み・書き・計算、点数に表れるもの） + 「総合的な学力（探究力・表現力・コミュニケーション力 etc）」

授業観

「知識教授型の授業」から「知識を活用し、OUTPUTする主体的な授業」へ

- ◆ 基礎学力（読み・書き・計算、点数に表れるもの）を鍛える授業展開
- ◆ 各教科等の授業で探究的・互恵的な活動（討論・体験・子ども同士の教え合い）を核とした授業設計
- ◆ 各教科の枠を超えた横断的な授業（探究・創造）の充実～ さいと学を中心にした生活科・総合的な学習の時間
- ◆ 実社会とのつながりを重視した体験的な学びの重視